

# やすらぎだより

5  
月  
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

コラム第131号

## 「 自筆の意味 」

施設長 植田 誠



昭和の時代は‘伝言版’や‘連絡ノート’が申し送りの主流だった。常にペンを携帯し、メモをとりながら記録を残した。国語辞典は常に机の上にあり、擦れたページが多い程その存在価値は高く、手の届くところで重宝された。

‘申し送りは走り書き、会議録は丁寧に’の時代、自筆であることに意味があった。

「この字はあの人の字やなぁ」

パソコンが通俗となった現在、ほとんど聞かなくなった。

‘字は体を表す’‘書は人なり’も今は聞かない。字が下手な私は、そのことが若き頃からのコンプレックスだった。年を重ねても相変わらずだが、機会が減ることで余り気にしなくなった。喜ばしいことではないのは承知している。

メールが主流の現在、我が施設も‘一斉メール’が大流行りだ。会議録等を誰もが当たり前に使っている。例え、機械的な字体と画一的な文章であったとしても違和感をおぼえない程、スピーディーで何より便利。おまけに相手が確実に見たかどうかはお構いなし、送ったことでお役目完了。たった指1本で必要な記録や連絡が済ませられる時代に、声高らかに文句は言えない。

しかし、しっくりはしない。そこはかたなく不満が残る時はある。顔と顔を突き合わせなくても、想いは伝わり必要な伝達が可能なことは自覚しているが、物足りなく感じるのは正直な気持ちだ。

誰しもが同じに見えてくる、個性が見えづらくなってくる。おぼろげな不満の一つかも知れない。

利便性が優先される今だからこそ、一人一人に目を向けなければならない。自筆かパソコンかをこだわらず、メールか対面かもこだわらず、大切な個性を見る目。便利になればなるほど自らに言い聞かす。

先ずは国語辞典を手元に置き、ペンは必携するとしよう。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ    |
| ○在宅サービス事業所       | ○介護予防関連事業      |
| 居宅介護支援事業所        | ○グループホーム むつみあい |
| 訪問介護事業           | ○天理市ひとり暮らし     |
| 訪問入浴介護事業         | 高齢者世帯等見守り事業    |
| ○短期入所生活介護事業      | ○低所得高齢者等住まい・   |
| ○在宅介護支援センター      | 生活支援モデル事業      |
| ○天理市東部地域包括支援センター |                |